

## 創造的問題解決力を高めるようになるの？

「物理の問題を解く」「TOEFLで600点を取る」「売り上げを10%伸ばす」「環境に優しいクルマを設計する」「処理効率のよいプログラムを開発する」「限られた予算内で記憶に残る海外旅行する」「リーダーシップを伸ばす」「さびれた商店街を活性化する」。

私たちは、日々、上のような問題解決に直面している。これらの問題解決には、学校で習った知識やスキル、さらには社会の中で身につけた常識を働かすとすぐさま解決できる、すぐさま解決できる「定型的問題解決」もあれば、今までの解決法に何らかの工夫を加えなければ、よりよい解決には至らない「創造的問題解決」もある。

**創造的問題解決の極意**は、解決を要する事態や問題に対して、ありきたりの問題解決法から離れて**解決案を多数出して検討**し、自分で解決できる**問題に書き換え**、不可能と思われていた**事態の打開や問題の解決**を実現する点にある。スモールC創造性と呼ばれる普通の人の創造的問題解決の例をあげる。

英国のサセックス大学で2002年9月に実施された Creativity and Social Diversity 学会での出来事である。弓野は **Education Reform and Fostering Creativity in Japan** という小講演+質疑セッションで発表を準備していた。そこへ、教室の掃除をしていた中年のアフリカ系の黒人女性が近づいてきて、「この講演と質疑」に参加していいかときいてきた。もちろん「OK」と答えた。この経験は私には驚きであった。日本でこのような経験はまず無いからである。

彼女が何を望んで、私の小講演+質疑に参加したのかは、明かではない。しかし大学に入らなければ専門的な、学問に触れることの難しい英国で、少しでも自分の知識を増やそうという意図があったことは確かである。

この学会で別のケースをきいた。やはり同じアフリカ系の女性である。才能に恵まれながら、経済的な理由で高等学校に進むことができなかった。そこで彼女は学者になるという人生の目標を立てた。この目標向かって彼女は、中学を卒業するとより報酬の高いパート・ジョブをかけもちし、さらに生活を切りつめ、働きに働いて学費を貯め、まず高校、次に念願の大学に入学する。ここでも、いい成績を残して奨学金を受け、ついには念願の学者になったというのである。

人生に明確な目標を立て、それを到達するために、現時点で可能な**解決案を多数出して検討**し、自分で解決できる**問題に書き換え**、不可能と思われていた**事態の打開や問題の解決**を実現したのである。